

## トップ対談

## アラックス株式会社

## 高度化する廃棄物処理ビジネス

## 業界に先駆け グローバル展開に挑戦

アラックスは首都圏最大級の廃棄物管理型最終処分場の第2期増設に着手した。規模は埋め立て容量ベースで従来の2倍の200万立方メートルとなり、同時に、水処理能力が従来比1.6倍に、また脱塩素処理工程が増強され、21世紀型最先端の管理型処分場が実現する。今後は経済成長に伴う環境保全がアジア各地で大きなテーマになる中、インドネシアの環境サポートに乗り出す。業界初の海外進出を目指す新井隆太社長に、同社のグローバル戦略とベンチャー経営の難しさ、喜びについて日刊工業新聞社社長の井水治博が聞いた。



新井 隆太社長

**井水** 本日は業界のフロントランナーとしてのお話をお聞かせいただきたいと思っています。  
**新井** お話をする前に、東日本大震災で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。当社として、千葉県内のみならず、被災された地域の皆さまに対して、できることを全身全霊でやっていきたいと思っています。

## 経営理念

**井水** それでは、会社を立ち上げられた動機をお聞かせください。  
**新井** 大学卒業後に入社したミサワホームを27歳で辞めて起業し、今に至ります。動機というよりは、今に至るまであります。私の父親は、いろいろな商売を手がけては失敗し、8億円ほどの借金をしていました。父親の借金だから息子が返すのは当たり前です。給料では返せないから、商売をやろうと決めました。

そして、商売するならば、感覚的に100億円必要だと思いました。当時私は、三沢千代

治社長から任されていたプロジェクト規模は約2000億円でしたので、そのくらいは借りられると思っていました。  
最初は三沢社長に「会社には来ないけど、3年間給料がほしい」と頼み、特例を認めていただきました。それから、社長を通じてお会いしていたコネを使い、銀行に融資をお願いしました。ところが100億円どころか、1000万円でも貸してくれませんでした。



日刊工業新聞社社長 井水 治博

再び三沢社長に相談したら、「新井さんは年もない、経験も人も金ももない。何もない人間は人からお金を借りられないのですよ」と言われました。確かにそうでした。たまたま「三沢」の社長は、ミサワホームの信用がある。この十数人の役員を口説いた方が早いと思います」と言われました。  
最終的に、ミサワから50億円の融資をいただきました。株の持ち分についてミサワの役員から注文がきましたが、発端は父親の借金を返すところから始まっています。言ってみれば家業なわけで、人のものになつては意味がありません。そこで株はミサワ4割、私6割でスタートしました。その後ミサワに持つてもらった株はすべて買い戻しています。

**井水** 度肝を抜かれる話ですね。事業内容は当時から考えていたのでしょうか。  
**新井** 父親が少し手をつけていたのがあったのです。また、商売をやるならインフラ業を、という思いもありました。  
**井水** そして今の仕事を始めたわけですね。最初は苦勞されたのでしょうか。  
**新井** 最初に千葉県庁に行くと、「千葉県民でもない人が…」などと言われました。許認可をいただくために毎日県庁にうかがい、合計700回行ききました。毎朝8時40分から入り口に立つて、職員の方々に挨拶する。それを3年やっていました。違う仕事したらどうですか?とも言われましたが、許可をもらえれば来なくなるからと通い、ようやく認可をいただきました。その時の県知事の任期が切れ

る5日前でした。  
**井水** 尋常ではない、大変な努力ですね。  
**新井** 処分場のことには千葉県庁に全部教わりました。我々の君津環境整備センターは管理型ですが、数段厳しい環境の基準を設け、それをかなえるために、必要最低限な設備に比べ、かなり大がかりになっています。日本ではかなりグレードが高いと思われます。オーストラリアという人もいますが、それはそれくらいのもので作りたいという、私と千葉県庁の思いがあるのです。

**井水** 現場では最大級です。  
**新井** 現在の活用状況はどうかですが、新井 最初の107万立方メートルのうち、約60%はすでに埋め立てています。内容は、製造過程で出る産業廃棄物が中心です。今後は、インフラ業の役割をさらに担っていくために、一般廃棄物を重視してまいります。千葉県の650万県民をはじめ、首都圏の人々の生活を支えていきたいと思っています。  
**井水** 是非、実現していただきたいです。

**井水** 最後にはベンチャーの先輩としてお聞きしたい。日本は廃業率が高くて起業率が低い。中小企業は後継者がいないため、次々に廃業しています。一方でドイツは、非常に多くの企業があり、廃業が少ない。先進国で唯一といってよいほど、再び成長軌道に入っています。日本でも、新井社長のようにチャレンジャー精神、粘りのある起業家もあり、こういう方にメッセージをお願いいたします。  
**新井** 非常に難しい質問です。商売は、もちろん利益が出なければいけないと思います。しかし私もこの商売を初めて、最初はとうなるかわかりませんでした。千葉県庁に700回通っても、とうなるかわからない。そのときに、結果はどうなるんだという思いが先行すると努力も継続できないし、息切れすると思います。そのような現象にとらわれるのではなく、自分の生まれてきた役割や、偶然のように見えても、自分がこの商売に巡り合った意味というものを、自分で開発

していくことだと思います。その答えは誰かから教えてもらうのではなく、自分でその心を作り上げ、信じてものをき続けていく。そしてその人生というものを、喜んでいくぐらいになっていくかを、しっかりと見つめていくことです。自分で開発せしめていく努力というのが非常に重要だと思います。  
**井水** 開発する、作り上げるというのが非常に重要なポイントですね。  
**新井** そうです。最初からそのような心を持っている人はいないと思います。本当に自分の中にあるものを、自分で見えて来るといって、作り上げていくんです。

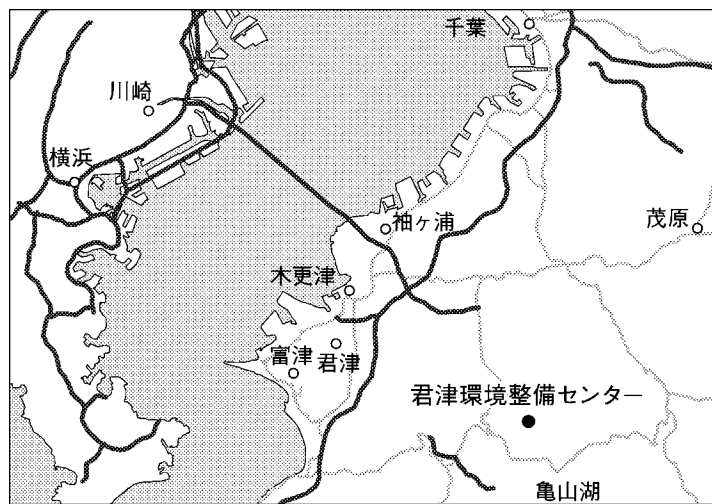


インドネシア・バンドルガバン処分場。敷地には3,000人のウェイスト・ピッカーが住む(写真:アラックス)

## 会社概要

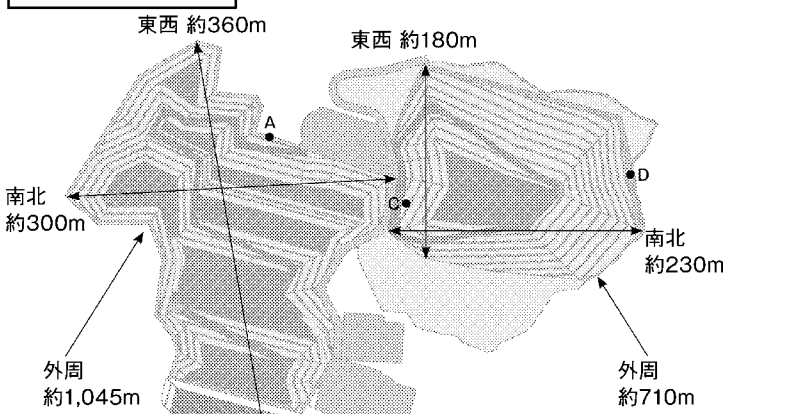
## アラックス株式会社

- ▷本社 東京都渋谷区代々木2-1-1  
メインタワー20F 03-5302-6500
- ▷創業 平成9年12月 新井総合施設株式会社設立  
(現在はアラックスグループの中核企業)
- ▷資本金 1億1275万円
- ▷年商 34億円(平成22年9月期)
- ▷従業員数 110名

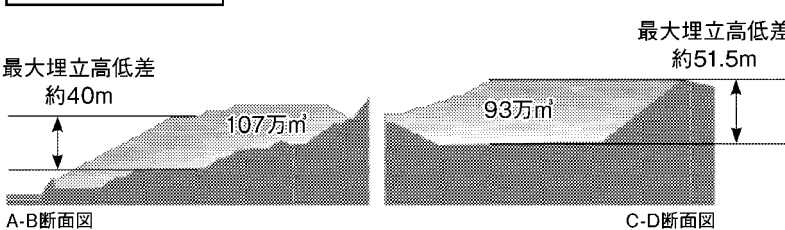


君津環境整備センター(千葉県君津市)は、最新設備に加え適正な管理、厳格な運営が評価され、「ウエステック2005」において環境大臣賞を受賞。敷地内隣接区域に新規埋立地を増設工事中。2014年に完成(予定)後は約10年の残余年数が生じる。

## 処分場平面図



## 処分場断面図



## 【既存埋立地】

## 【増設埋立地】